

平成15年5月26日

## 平成14年度決算発表

### ～平成15年度の経営方針について～

三井住友フィナンシャルグループの西川でございます。  
私からは、平成15年度の経営方針についてご説明いたします。  
お手許の資料の1ページをご覧ください。

#### 15年度経営方針

昨年度、当社は、各種施策を通じて、財務リスクを圧縮すると共に資本を増強、今後収益力を更に強化しながら、バランスシートのクリーンアップを一層加速し得るだけの財務面での足場を築くことができました。

今後2年間においては、「不良債権比率の半減」を必ず達成いたします。  
当社は、「この2年でいかに企業価値を高めていくか」をキー・コンセプトとして、

バランスシートの更なるクリーンアップ、と  
収益性の高いビジネスモデルの確立、そして  
ボトムライン収益の確保・拡大、

これを実現いたします。

不良債権、保有株式、業務純益、それぞれについてのターゲット・目線については、資料の下にグラフでお示した通りであります。

#### S M B C アセットクオリティ改善 - 不良債権残高の大幅削減

では、まず不良債権残高の削減に対する考え方をご説明いたします。  
2ページをご覧ください。

開示債権は、今後2年間で2兆8,000億円程度削減し、17年3月末には2兆5,000億円程度にするという目標であります。

危険債権以下のオフバランス化は、引き続き売却などによる積極処理を継続しますが、要管理債権についても昨年12月に立ち上げた戦略金融部門を中心に問題債権先への対応方針を明確化し、再生あるいは売却を含めた最終処理への取組みを本格化いたしております。

これにより、不良債権比率は14年3月末の実績8.9%から半減し、4%程度となる見込みであります。

クレジットコストは15年度6,500億円を見込んでおります。これは、先行き不透明な景気動向を踏まえ、デフレ環境が当面持続するとの前提による予想であります。

15年度のクレジットコストの内訳は、「オフバランス化コスト」で2,500億円、さらに、要管理先への積極的な取組みを行うことに加え、デフレが深刻化する等のリスクを勘案し、「劣化コスト等」として4,000億円を予想しております。

なお、16年度のクレジットコストは、この15年度の処理を前提とすれば、さらに3割程度減少するかとみております。

## **S M B C 収益力増強 - 基本アプローチ**

次に収益体質強化についてご説明します。  
3ページをご覧ください。

基本アプローチは、

- ・粗利益においては、「取るべきリスクの明確化と収益性の高いビジネスモデルの確立」
  - ・経費においては、「ローコストオペレーションの徹底」
- であります。

この方針の下、主として3点に取り組みます。

まず、「法人取引」におきましては、「貸出ビジネスを中心としたビジネスモデルの変革」を進めているところですが、今年度は、「質を伴った貸出ボリュームの増強」を図ってまいります。

具体的には、リスクコントロールの高度化を踏まえて、審査体制を抜本的に改革、同時に、リスクテイク商品を拡充していく考えであります。

さらに、ソリューション営業の切り口から、市場型間接金融、投資銀行業務に一段と注力してまいります。

次に、「個人取引」におきましては、「ビジネスモデルの確立と、競争優位にあるビジネスでの攻勢強化」を図るということであり、コンサルティング事業やローン事業などのビジネスモデルを確立し、投信・投資型年金の販売、住宅ローン、といった競争優位にある事業を一段と強化する考えであります。

最後に、「更なる合理化を通じた経費削減の推進」については、従来の計画を1年前倒しして、年間経費6,000億円体制を今年度に達成する計画であります。

## **S M B C 収益力増強 - 業務純益 1 兆円体制の確立**

4 ページをご覧ください。

当行の業務純益は、今年度見通しを含め、3年連続で1兆円以上となります。過去2年においては、市場部門収益の拡大や子会社配当などの寄与もありましたが、マーケティング部門において、非金利収益の拡大、圧倒的に低い経費率の実現など、収益の質、収益性において着実に成果をあげてきております。

今年度は、市場部門収益はある程度の減益にならざるを得ないと見ておりますが、マーケティング部門の増益によって、1兆円を確保する考えであります。

## **S M B C 収益力増強 - 更なる合理化の推進**

最後に、合理化について申し上げます。  
5 ページをご覧ください。

これまで、常に計画を上回る経費削減を実現してまいりましたが、今年度はご覧の主要施策を講じ、一気に470億円を追加削減し、1年前倒しで年間経費6,000億円体制を実現する考えであります。

以上、今年度の経営方針をご説明しましたが、言うまでもなく、当社・当行にとって今年度が勝負の年であります。既に高い水準にある収益力を一層強化すると共に、バランスシートのクリーンアップを加速しまして、目標を達成することで、市場の信頼を回復してまいります。

以 上